

## 前回会議（R6.2.2 千葉県子どもの貧困対策推進計画策定作業部会） の結果概要（課題の洗い出し関係）

※事前の意見照会及び会議当日にいただいた意見(主なもの)を、今回の計画素案の柱立てに従って整理したもの。

### 1 生活の支援

- 貧困対策の重点項目としては、教育支援の前に、生活支援だと思う。  
まずは生活を立て直す材料である「生活の支援」があって、その上で将来をあきらめないで済むような「教育の支援」が出てくることを基礎としてはどうか。
- これからの計画には、「こども食堂」や「こどもの居場所」等を含めた民間の活動をしっかり位置づけてほしい。
- こども食堂、こどもの居場所、こどもの生活・学習支援、フードバンク、親の悩み相談所、フリースクールなどが一体になった「ミニ総合福祉センター」のようなものがコンビニのように気軽に入れる施設として、コンビニの数ほどあることが理想と思う。
- こどもの居場所において、「生活支援」や「自立支援」という目的が強調されてしまうと、困難な状況にあるこどもはかえって利用しにくくなったり、利用をためらってしまう。  
ワンストップで色々なメニューを選ぶことができる「困っても困らなくても行ける場所」があれば、関係機関の連携も進むと思う。
- 本来、家庭が担う「こどもに学校を卒業させて社会に送り出す」機能を担えない家庭が存在する。そういう人たちへの支援が検討課題としてあるのではないか。

### 2 教育の支援

- スクールソーシャルワーカーの課題の洗い出しと強力な支援が必要ではないか。
- 高校への進学が貧困の連鎖を防ぐ一つの手段であることは変わらないが、就学支援の充実もあり、経済的な問題で進学できないこどもは減ってきている。  
一方で、通信制の高校やインターネットの高校もあるため、実態はより見えにくくなっており、そこを中退してしまうと誰が支援しているのか分からなくなる。  
高校進学後の中退予防や中退後の支援が重要ではないか。

### 3 就労の支援

- ひとり親支援について、資格取得を通じた助成制度は整備されているもののハードルが高いのも事実。
- 日常の家事支援（炊事・掃除・子の送迎等）も有益。

#### 4 経済的支援

- 女性のひとり親への経済的支援の充実が必要ではないか。
- 学用品について、就学支援等が手厚くなってきた中でも、急な支払い等が課題となっている。学校教育のカリキュラムで必要なものは、家庭によって差が出ないように、学校で用意するような仕組みが必要ではないか。
- 学校の年度末・年度始めに、家計相談に熟知した人材を派遣し、相談しやすい環境をつくる必要があるのではないか。

#### 5 支援につなぐ体制整備

- 早期の気づきに重きを置くために、こどもの所属先の職員(幼保・小・中・高)が一人ひとりを気にかけて、気になる子がいたら速やかにつなぐのが大切であることを周知すべき。そのためには、これらの職員に、貧困の状態を理解してもらい、責務として落とし込む必要があるのではないか。
- 地域で活動している民間団体の方の気づきや支援方法に対し、相談しやすい専門的人材の配置が必要ではないか。
- スクールソーシャルワーカーがつかない先(居場所など)の支援者の組織化や支援を図っていかなければならないのではないか。
- 制度の切れ目に対する民間の支援活性化のための行政の支援強化が必要ではないか。
- 新型コロナの流行が収まった後も、こども食堂での子育て世帯へのフードパントリーや、高校生・大学生への食料支援活動が続いている。  
特に、従来支援の対象と捉えられてこなかった、高校生・大学生への支援を検討していく必要があるのではないか。
- 「気づきのチェックシート」が令和2年度に策定されたが、現場で使われなければ意味がないので、文言や項目数を精査し、少ない負担で傾向がつかみやすい、使い勝手のよいチェックシートを作成していくべき。

#### 6 こどもの貧困に対する社会の理解促進

- こどもたちにも、貧困を自分の問題として向き合う勇気を伝えたい。
- 自らは貧困であることに気づいていない、相談できる人・場所がない人が多い。  
「何か困っていることはない?」、「最近困ったことはない?」が日常の挨拶になるような環境が望ましい。